

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度

令和元年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立南障害者地域活動支援センター
指定管理者名	特定非営利活動法人エヌピーオーかむ
指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日(5年間)
施設設置条例	相模原市立障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	精神障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、相談支援を行い、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を行い、もって精神障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条)
施設概要	開館時間:火曜日、水曜日及び金曜日 午後1時から8時まで 土曜日、日曜日及び休日 午前10時から午後5時まで 休館日:月曜日及び木曜日、12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数:257日 施設延床面積:396.72㎡ 施設は、市営団地4号棟1階(延床面積415.55㎡)に合築 主な施設:フリースペース、キッチン、ダイニングルーム、相談室、静養室、多目的室、浴室、洗濯コーナー、事務室、倉庫、駐車場、自転車置場
施設所管課	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	9,911	8,445	7,973				
利用料金合計(円)	857,000	779,750	634,100				
収入総額(円)	28,560,710	29,247,074	29,313,171				
支出総額(円)	27,467,175	26,325,375	27,821,126				

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
D	平成30年度に引き続き、目標値が実績値を下回っている。登録者数は増加しているため、来所ではなく電話等の相談が増えているのか、利用目的が変化しているのか、今後の施設の在り方を検討する必要がある。

指標1

指標名(単位)	開所日1日当たりの平均利用者数 単位:人
指標式と指標の説明	年間延利用者数 ÷ 開所日数 利用率の向上に向けた指標

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(単位)	30.0	40.0	40.5	41.0	41.5	42.0	
実績値(単位)	38.7	32.9	31.4				
達成度(%)	129.0%	82.3%	77.5%				

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	生活支援事業、相談支援事業、地域交流事業など、地域活動支援センター型として適切に運営されている。特に、地域交流として実施した「FESTAみなみ風」については、模擬店や演者など多数の団体の協力を得て実施しており、地域の方々の障害者理解が深まったと考えられる。また、相談支援事業については、新規の登録者数も増加（新規登録者数63人）しており、多数の精神障害のある方の支援を行っている。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
生活支援事業	通年	食事、入浴、洗濯等の具体的な援助の提供並びに対人関係に対する助言や指導（来館者数平均31.4人/日。食事利用平均8.7人/日。）	
地域交流事業	通年	地域住民との交流を通じた障害者の社会参加の促進、市民の障害に対する理解の促進（特に「第9回FESTAみなみ風」については、模擬店や演者など多数の団体の協力を得て実施しており、地域の方々の障害者理解が深まったと考えられる。来場者は約350人。）	
情報提供事業	通年	市内の社会資源の紹介、機関紙の発行、ホームページの開設（さがみはら地域ポータルサイト（さがポ）にHPを新たに開設。）	
就労支援事業	通年	利用者の希望に応じた就労移行に関する必要な支援（基本相談支援において就労に関する支援として320件対応。求人情報の提供など）	
ピアサポート事業	通年	障害者の当事者間の相互支援を行うための人員（ピアサポーター）の養成、研修会の開催（月1回のピア定例会出席。毎月2回のピア相談、ピアサポーター養成研修（カミングに協力）実施。新たに、ピアと当事者の語りプログラム「ピアトーク」を年4回開催し、ピアの普及啓発を図った。）	
基本相談支援事業	通年	電話相談、面接相談、同行、訪問、連携 相談件数合計3,581件	
計画相談支援事業	通年	サービス利用支援及び継続サービス利用支援 相談件数2,648件【指定相談支援（計画相談、地域移行支援、地域定着）】	
地域相談支援事業	通年	地域移行支援及び地域定着支援 相談件数上記のとおり	

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
		自主事業なし	

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	満足している人の割合が90.5%であることや毎回アンケート結果を分析し、翌年度以降の事業に反映している点（プログラムの改編を行う等）を評価する。今後も利用者ニーズに応えられえる施設を目指していただきたい。 なお、アンケートの配布数と比較して回収率が50%強と低いので、今後改善を期待する。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	令和元年に1回以上の利用があった者(317名)に対するアンケート調査 / 対象者数317名、配布数267名、回収数137名
目標値の基準	「満足している」「おおむね満足している」と回答した人の割合の合計

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	91.1	91.7	92.3	/	/	/	/
実績値（％）	77.0	92.7	90.5	/	/	/	/
達成度（％）	84.5%	101.1%	98.0%	/	/	/	/

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
運営協議会	2月	新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	経営規模は大きくないが、着実に利益を計上している。資金流動性は良好であり、自己資本比率は高い。懸念事項として、現預金の保有額が、指定管理事業支出の1.3ヵ月であり少額であること、小規模団体であるのに、1,300千円の貸付金がある等、法人分割により規模が小さくなっており、若干の懸念がある。

施設の収支概要		直近3年間について記載			（千円）
項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
収入（a）		28,561	29,247	29,313	
指定管理料		24,744	26,368	26,367	
利用料金収入		857	780	634	
その他の収入		2,960	2,099	2,312	
支出（b）		27,467	26,347	27,821	
人件費		21,636	21,452	22,932	
本社管理経費		861	862	851	
その他の支出		4,970	4,033	4,038	
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)		1,094	2,900	1,492	
自主事業収入（d）					
自主事業支出（e）	自主事業なし	自主事業なし	自主事業なし	自主事業なし	
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)		0	0	0	
全体収支 【(c)+(f)】		1,094	2,900	1,492	
備考					

団体の財務状況	団体本体の経営状況について若干の懸念がある。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	令和2年7月28日	
実施時期	施設所管課職員による現地視察	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	改善済	衛生管理マニュアルが作成されていなかったが改善済み
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	改善済	文書管理規定が作成されていなかったが改善済み
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 指定管理者の自己評価

基本相談支援および指定相談支援については、相談その他対応件数が増加している。プログラム運営その他の事業と並行して業務を遂行しているが、限られた職員体制での業務量としては限界と言える状況である。職員間で共通認識を持ち、意思の疎通を大切にしながら日々起こる様々のことに対応している。チームとしての当センター職員の業務対応力は高いと自認しており、であるからこそ大きな支障はなく業務を行えていると考えている。資格を保有している職員がおらず、一部実施できないプログラムがあったため、令和2年度は新たにSST研修を受講し、対応できる職員を増やして開催予定である。

障害特性によって、相談にかかる時間に偏りが出してしまうことがあるため、利用者が不公平感を抱かないように調整をしていく。

9 所管課意見

- ・南区における障害者地域活動支援センター 型として生活支援事業、相談支援事業、地域交流事業などについて適正に実施しており、施設の役割を十分に果たしている。
- ・障害特性の多様化が進み、これまでとは異なる支援や対応が求められる場面も増えてきている。限られた職員体制ではあるが、研修等を活用し、さらに職員の質を向上させることで、利用者一人ひとりへのきめ細やかな対応を求める。

10 選考委員会意見

【評価した点】

- ・精神障害者支援の南地区の拠点施設としての役割を理解し、地域のネットワークづくりを積極的に行っている。
- ・利用者満足度調査については、アンケートの実施に留まらず、アンケートで出された利用者からの意見に対して、向き合い、対応している点は評価できる。

【今後に向けて期待すること等】

- ・モニタリングシートの成果指標にもなっている来所者数（フリースペースの利用者）が、平成30年度に引き続き令和元年度も減少しているが、電話等を用いた相談件数は増加していることから、施設の活用の仕方が変化している可能性がある。施設の活用実態を検証し、今後の施設運営及び成果指標について施設所管課と調整を行うと良いのではないか。
- ・精神障害者は、来所が定着するまで時間もかかると思われる。来所ができず孤立化しているご家族や当事者も多くいると思われ、来所につなげる工夫をより考えていただければ良いのではないか。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症の対策を講じて、利用者が安心・安全に利用できるような施設運営をすること。

総合評価（自動判定）

C

(45/100)

